



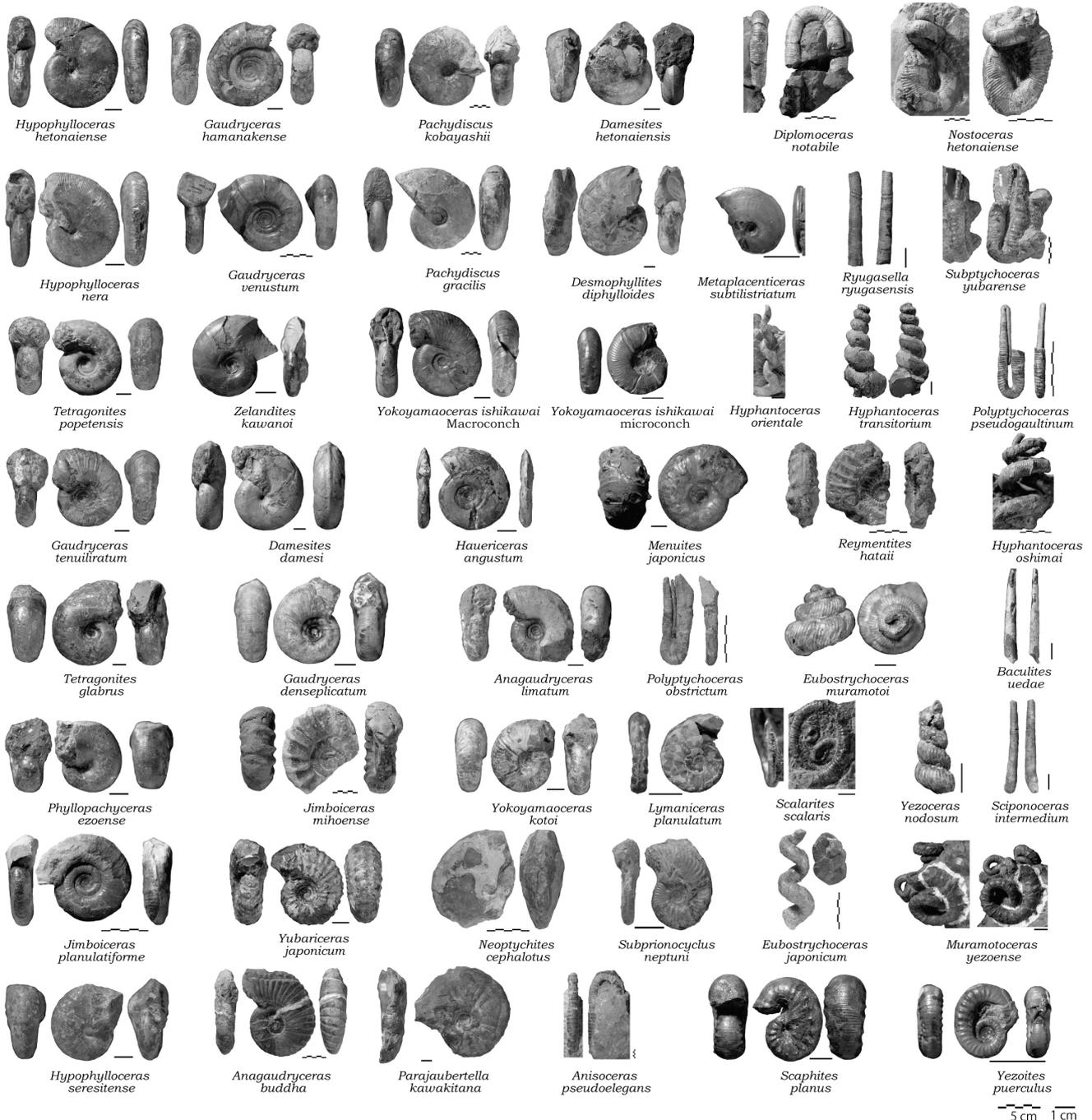
穂別博物館 2010 春季特別展

北海道アンモナイト図鑑

2/6 (土) ~ 5/30 (日)

@ 博物館特別展示室

北海道産 白亜紀アンモナイト約60種の特徴や生息時代について解説。



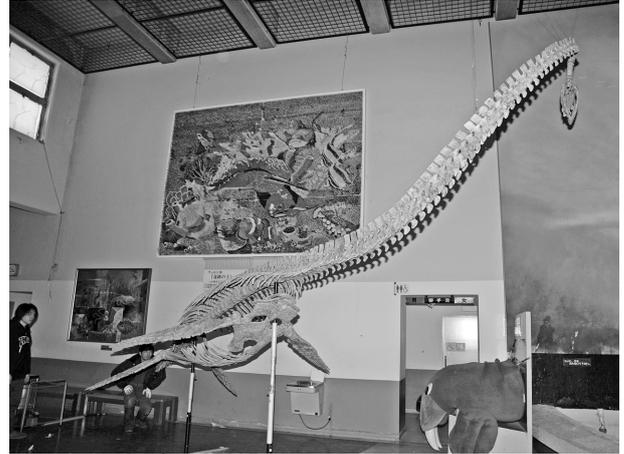
ホベツアラキリュウ、おたる水族館に登場！

おたる水族館（小樽市）に、ホベツアラキリュウ全身復元骨格が登場します。その他、同じく中生代白亜紀のモササウルスやアンモナイト、イノセラムス、そして新生代第三紀のイルカなど、穂別の化石がいくつも展示されます。

おたる水族館では、様々な魚や、イルカ、アザラシ、ペンギンなどが飼育・展示されています。今年の冬期営業期間（1/30～2/14）中の特別企画として、穂別の化石が紹介されます。

化石となった過去の生物と、現在の生物を比べて、生命の歴史を感じてもらえたらと思います。

開催期間はちょうど「おたる雪あかりの路」や「さっぽろ雪まつり」の時期で、国内外の観光客でにぎわうようです。おたる水族館で化石を見た人たちが、穂別まで来てくれることを願っています。
（学芸員 桜井）



おたる水族館に設置されたホベツアラキリュウ

学名 散歩 2 「オサガメ - 革のカメ - 」

穂別地区で数多く発見されている白亜紀のウミガメ「メソダーモケリス」は、オサガメ (*Dermochelys coriacea*) の祖先であると考えられています。オサガメは現生最大のウミガメです。最大のもので、オスで甲羅（こうら）の長さが256cm・916kgという記録が残っています。ほとんどのカメの体は骨でできた甲羅の上をウロコがおおっていますが、オサガメはウロコの代わりになめらかな革（かわ）のような皮膚（ひふ）が全身をおおっています。

Dermochelys = dermo-（革の<ギ>） + khelus
（カメ<ギ>） <ギ>：ギリシア語、<ラ>：ラテン語
coriacea = coriaceus（革質の<ラ>）

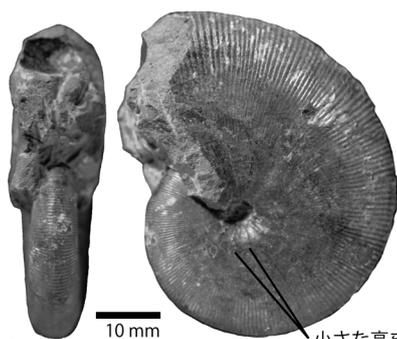
つまり「革のカメ」という意味です。「革」という言葉がくり返し使われています。英語名は、leatherback turtle（革の背中をしたカメ）で、こちらにも「革」の意味です。
（学芸員 桜井）



オサガメ：ウロコの代わりに革のような皮膚です



アカウミガメ：体はウロコにおおわれます



むかわの化石や生き物<穂別のアンモナイト>

Hypophylloceras nera

ハイポフィロセラス・ネラ

5-6cmの段階で、へその周辺に小さな高まりが出る種類。13cmほどまで成長する。19世紀にインド産の2cmほどの1個体を基に新種として記載・報告された種。約150年間に渡って実態不明の種類だったが、1990年代に、穂別で中～大型の4標本が産出し、成長様式や生息時代が明らかになってきた。白亜紀カンパニアン期からマストリヒチアン期前期（約8000万-7000万年前）に生息。（普及員 西村）

2010年 2月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | | | | | | |

■：休館日
2/1、8、15、22は通常の休館日
2/12は2/11の振替休館日

クビナガリュウ、モササウルス、ウミガメ、ペンギン、イルカ、アザラシ、みんな海の生物ですが、それぞれ泳ぎ方が違っています。化石を見て、今の生物の姿を見て、違うところや同じところをさがしてみるのもおもしろいですよ。（さ）